



祐介の目

No.121

大田祐介 (福山市議会議員)

が多くの患者さんの命を救ったからだと感じている。このように私と小林君は福山、岡山にかけて人生がクロスしているような感覚がある。

政治家より医者である方が金銭的な苦労が無いのは間違いないと思うが、岡山大学医学部を卒業して政治の道に進んだ方も一人いる。旧民主党の五島正規さんで、私の父の同級生だった。五島さんの苦労話を聞いていたのか、最初は父が岡大の後輩であり自分の実家のある選挙区から出ている小林君を応援していたが、最近私達が附属の同窓としてお互いがお互いの選挙の応援弁士に駆けつける等、懇意にしている。

医師免許を持つ国会議員という方は意外に多く、衆参合わせて20名程おられるようだ。新型コロナウイルスの世界的流行を受け、医療現場の実情に関する知見の豊富な医師免許をもつ国会議員全員によって医師国会議員の会という議員連盟が設立されており、小林君がこれに加われば頼もしい。コロナ禍においてワクチン接種もできるし、被災地に行けば仮設診療所で診察もできる。災害時の即戦力がじつは医師国会議員だ。

福山出身の小林孝一郎

風雲急を告げる中、小林史明代議士の他にもう一人の福山出身の小林君を紹介したい。

小林孝一郎岡山県議会議員、福山市松永町出身の44歳、広大附属福山高校から岡山大学医学部に進み、岡山労災病院等の勤務を経て平成23年に血縁の無い岡山市南区にて県議初当選。おそらく多くの患者さんが応援してくれたのだろう、現在3期目であり岡山県議若手のホープとの呼び声も高い。そして新聞によれば、自民党岡山県連から比例代表の中国ブロック自民党公認候補に推薦されたそうだ。

小林孝一郎君とは不思議なご縁がある。私は岡山市南区浦安本町に生まれ、昭和47年に父が岡山大学病院から国立福山病院への転勤を機に一家で福山市に引っ越してきた。以来、福山市で育ち広大附属福山高校を卒業して作業療法士となり血縁の無い福山市で市議会議員になれたのは両親